



平成 20 年 9 月 11 日

各 位

会 社 名 株式会社 クリムゾン  
(JASDAQ・コード番号：2776)  
代表者名 代表取締役社長兼CEO 茂木眞一  
問合せ先 取締役CFO 藤田宇明  
電 話 03-5637-0505

平成 21 年 1 月期中間期業績予想（連結・個別）との差異に関するお知らせ

当社が平成 20 年 3 月 26 日付「平成 20 年 1 月期 決算短信（連結）」にて公表しました平成 21 年 1 月期中間期（平成 20 年 2 月 1 日～平成 20 年 7 月 31 日）業績予想（連結・個別）との間に差異が生じることとなりましたのでお知らせいたします。

記

### 1. 連結業績予想数値との差異

平成 21 年 1 月期中間期（平成 20 年 2 月 1 日～平成 20 年 7 月 31 日）

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	6,453	0	△30	△50
今回修正予想 (B)	6,122	△117	△160	△197
増減額 (B-A)	△330	△117	△130	△147
増減率	△5.1	—	—	—
(ご参考) 前期実績(平成 20 年 7 月中間期)	6,293	△523	△505	△1,070

### 2. 個別業績予想との差異

平成 21 年 1 月期中間期（平成 20 年 2 月 1 日～平成 20 年 7 月 31 日）

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	5,553	0	△30	△50
今回修正予想 (B)	5,409	35	34	2
増減額 (B-A)	△143	35	64	52
増減率	△2.5	—	—	—
(ご参考) 前期実績(平成 20 年 7 月中間期)	5,541	△253	△232	△1,300

### 3. 業績予想修正との差異が生じた理由

連結においては、上期におけるカジュアルウェア業界において、各社の出店の広がりによる競合激化や売れ筋商品不在・5月以降の都市部を中心とした気温上昇の遅れによる天

候不順などによる需給ギャップの乱れに加え、ガソリン価格の高騰・生活必需品の値上げの一方で、消費者の収入に増加が見られないことから、消費者心理の冷え込みの煽りを受け、多くの企業が売上高を前年に比べ減少している状況にあります。こうした中、連結子会社であるパイオニアトレーディング株式会社の業績に関して、営業損失・経常損失・当期純損失は、前年同時期に比べ改善しているものの、売上高が、既存店ベース前年2桁改善も総規模では当初予想していた数値に届かず前期並みの結果となりました。また、売上総利益は一部過剰在庫になっていた季越品を処分したことにより減少いたしました。これらのことが、当初予想した数値に届かなかったこと的主要原因です。以下がパイオニアトレーディング株式会社の期初計画と実績との差異となります。

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
期初計画 (A)	860	0	0	0
実績 (B)	735	△171	△182	△186
増減額 (B-A)	△124	△171	△182	△186
増減率	△14.4	—	—	—
(ご参考) 前期実績(平成20年7月中間期)	752	△221	△227	△279

(注) 内部取引の影響を除いた数値になっております。

個別においては、業界の動向は、従前の通りであります。売上高は卸売事業が伸長したことにより小売事業の落ち込みを補ったものの当初予想していた数値より若干未達となりましたが、家賃地代関連費用や物流関連費用の抑制による固定費を含む販売費及び一般管理費のコントロールにより当初予想していた数値より下回った結果、営業利益・経常利益・当期純利益は、当初予想していた数値より上回る事となりました。

尚、通期業績予想(連結及び個別)につきましては、現在、上期の実績値を踏まえ下期業績予想値を精査しており、明らかになり次第速やかに公表いたします。

以 上